

編集後記

【編集後記】

- ・食用油用途に加え、景観作物、バイオ燃料等として話題となってきた「油糧作物」として、なたね、ひまわり、ごま、エゴマ、オリーブを特集として取り上げました。
- ・我が国食用油の太宗を占めたナタネは、代替油脂原料の大豆の輸入自由化等から激減し、現在自給率は0.004%となっております。子供時代、黄色い菜の花畑で遊び、ナタネ油で揚げた“ツケアゲ（さつま揚げ）”で育った身としては、エルシン酸の問題も有ったにしろ寂しい限りです。エルシン酸については、無・低エルシン酸品種の育種・普及の経過と品種が紹介されています。
- ・なたねについては、「菜の花プロジェクト」として全国の産地の取組組織もあり、毎年イベントが行われていますが、その取組も、景観（観光イベント）、BDFと合わせ、安全安心な国産油脂の生産となっており、今回紹介いただいた、滝川市、横浜町も同プロジェクトに加盟され、油及び油加工品の開発・販売等含め地域の活性化の1つとして栽培されている状況を紹介いただきました。
- ・ひまわりは、我が国での油脂原料作物としては比較的新しいといえるかと思いますが、なたね以上に花としてのイメージが強く感じ、産地紹介いただいた斐川町も、景観作物としての要素も折り込み、産地育成に努めておられる様子が伺えます。
- ・今後のなたね・ひまわりは、共通する作物特性として大規模機械化栽培に対応した油糧作物であるとして、BDF、景観を含め今後が期待されるとの指摘もされ、実体としても、現在の産地は大型機械化栽培体系が取り入れられる基盤を持つ地域が産地化されてきているように思われます。
- ・ごま、エゴマは、なたね・ひまわりの大型機械化体系とは異なり、小型機械を使った生産現状と地域伝統食品としての実体が紹介されました。
- ・ごま・エゴマは、ごまと言っても異なる作物がありますが、古来より栽培されてきており、近年は機能性食品等としての有用性が期待され、成分分析、組成変化等その成果を紹介いただきました。
- ・オリーブは、ナタネ等草本性作物と異なり「オリーブ樹」と言われるとおりの木本性であり、利用される部分も「子実」ではなく「果実」です。我が国に導入されて100年とかで、昨年、小豆島では100周年記念イベントが開催されました。
- ・オリーブも外の農産物と同じように輸入自由化により減少を続けていましたが、その後のイタリア料理や健康食品ブームによって回復基調となり、更に、平成15年には旧内海町（小豆島町）はオリーブ振興特区の指定を受け生産回復してきている状況、国産のオリーブは漬物用が主体で主要品種は兼用種である状況、品種・種苗・栽培等諸課題やそれらに対する研究対応の状況等について紹介いただきました。
- ・関係機関紹介では、宮崎県総合農業試験場の「薬草・地域作物センター」を紹介いただきました。その大きな設置目的として、「食と健康の情報発信」機能があるとのことで、薬草の名が付いているとおりの薬膳料理等「薬草・ハーブ料理を楽しむ会」の開催や、公園の展示見本園等、新しい農業研究機関の1つの方向性、と、言えるかとも思いました。
- ・油糧作物と言っても、作物特性は全くと言ってもいいほど異なる「5作物」を取り上げました。何なりと、感想等お寄せいただけたらと思います。
(上野幸一)

発行日 平成21年10月1日
発行 財団法人 日本特産農作物種苗協会
〒107-0052 東京都港区赤坂2丁目4番1号
白亜ビル 3階
TEL 03-3586-0761
FAX 03-3586-5366
URL <http://www.tokusanshubyo.or.jp>
印刷 (株) 丸井工文社